

事することとなった。特に碓氷線について明治22年建築師長パウネルと路線調査を行なったが決定せず、翌年パウネルの建言で和見線が決定した。しかし本間では中尾線を主張し、同24年松本莊一郎・パウネルらと再調査を行ない、中尾線が採用されることになった。明治23年鉄道庁第一部長野工務課長となり、同年鉄道庁二等技師に任ぜられた。翌年横川出張所長を兼任し、碓氷線の建設工事を統轄した。碓氷線完成後の明治26年鉄道庁青森出張所長となり、同年福島出張所設置とともに所長を兼任したが、翌27年退官した。のち東京に本間鉄道工業事務所を開き総武・北越・紀和・東武など各鉄道の建設を手がけ、明治37年外務省の委嘱により中国の厦門・南昌・九江間、朝鮮の元山・

平壤間などの線路調査におもむいた。明治43年病気のため引退し、昭和2・9・29胃ガンのため慶応病院でせい去した。

(原田勝正)

ほんまき 本巻 (英)lining (独)Auskleidung ずい道は掘さく後に覆工を行なうのが原則である。本巻は覆工を行なうに際して、まず側壁部、次にアーチ部と下部から上部へ順にコンクリートを打設する工法で別名**順巻**という。

この工法は比較的地質が良好なずい道に用いられ、高速度施工による高能率化を目標に採用される*全断面工法は、この工法によってコンクリートを一度に打設する。→逆巻

(菊田 郁次郎)